

営農情報（水稻）

～田植え後の管理について～

令和7年6月
福岡大城農業協同組合
南筑後・久留米普及指導センター

6月上旬現在、育苗はおおむね順調です。病害の発生などは特にみられていません。

1 田植え

トビイロウンカの被害や登熟期間の高温遭遇による品質低下を防ぐため、6月20日以降の適期植えとします。また、極端な疎植は、紋枯病のリスクを高め、充実不足による収量・品質低下を招くため、避けます。

<栽植目安>50～60株/坪、3～4本/株

2 病虫害防除（箱施薬剤）

箱施薬剤は、効果の安定のため田植え前日までに、50g/箱を確実に散布してください。なお、散布後は薬剤定着のために軽くジョロでかん水しましょう。

品種	箱粒剤	対象病虫害	使用時期
元気つくし	アンコール箱粒剤	いもち病・ウンカ類・ゾウムシ	移植3日前～移植当日
ヒノヒカリ ツクシホマレ	フィルラゲ かつ箱粒剤	ウンカ類・ゾウムシ	播種時（覆土前） ～移植当日

3 雑草防除（初期、初中期一発除草剤）

初中期一発除草剤は水を介して広がり、土壌表面に草を枯らすための「処理層」を作ります。雑草の芽や根が「処理層」に触れて有効成分を吸収し、枯死します。湛水処理とし、粒・フロアブル剤で3～5cm、ジャンボ・FG剤で5～6cmの水深を保ちましょう。

除草剤		散布量/10a	使用時期
サラブレットKAI もしくは ラオウ	1キロ粒剤	1kg	移植時または 移植直後～ル ¹ I2.5葉期
	フロアブル	500ml	
	ジャンボ	10パック	移植直後～ル ¹ I2.5葉期
ジャスタ	1キロ粒剤	1kg	移植時または 移植直後～ル ¹ I3.5葉期
	フロアブル	500ml	
	ジャンボ	10パック	移植後1日～ル ¹ I3葉期
ガツントZ 200FG	FG剤	200g	移植後3日～ル ¹ I3.5葉期

【注意】 ①除草剤成分の河川への流亡を防ぐため、散布後7日間は落水しない。

②田植え同時処理は、土の戻りが悪いと薬害が出やすいため、使用を避け、田植え後速やかに入水する。

③雑草種子の発芽は代かきしたら始まるため、除草剤の使用基準内でなるべく早く処理する。なお、代かき～田植えが4日以上空く場合には、『**デルカット乳剤**』の使用を検討する。**!!本剤処理後、4日間は田植えができないので、注意が必要!!**

4 水管理

(1) 活着期（田植え後～10日ごろ）

田植後、植え傷みを防ぐため、湛水します。

ジャンボタニシが多い場合は、スクミノン（1～4kg/10a）を散布します。

(2) 分けつ期（田植え後10～30日ごろ）

浅水での間断かん水を行います。なお、麦わらをすき込んでガスが発生している場合は、ガス抜きも兼ねて、落水期間を長くした間断かん水とします。

(3) 中干し（田植え後30日ごろ～）

株当たりの**茎数が20本程度**になったら、7～10日間の中干しを行います。**特に、元気づくしは、倒伏防止のため、中干しを確実に**行います。

【注意】 ①中干しの程度は、足跡がつくくらいの黒い状態で、ひびが入る程度。

②幼穂形成期以降は最も水を必要とするため、出穂20日前頃までに**中干しを終わる**。

5 雑草防除（中・後期除草剤）

初中期一発除草剤の散布後に発生した雑草に対しては、雑草の種類に応じ、以下のいずれかの薬剤を散布します。

雑草の種類	薬剤名	散布量/10a	散布方法	使用時期
イネ科 (ヒエ)	トドメMF 1キ ロ粒剤	1kg	湛水	移植後14日～ノビエ5葉期 収穫50日前まで
	トドメMF乳剤	200mL (水量25～100L)	湛水または 落水	移植後14日～ノビエ7葉期 収穫50日前まで
イネ科 と広葉	ワイドショット 1キロ粒剤	1kg	湛水	移植後15日～ノビエ4葉期 収穫45日前まで
	ロイヤント乳剤	200mL (水量25～100L)	落水または ごく浅水	移植後20日～ノビエ5葉期 収穫45日前まで
	トドメバスMF 液剤	1000mL (水量70～100L)	落水	移植後15日～ノビエ6葉期 収穫50日前まで
	レプラスジャン ポ	10パック	湛水	移植後14日～ノビエ4葉期 収穫60日前まで

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!